

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4074200140
法人名	株式会社 西日本介護サービス
事業所名	グループホーム ウィズライフ新宮
所在地	福岡県糟屋郡新宮町下府1-4-12 (電話) 092-941-5710

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 8月 19日
評価確定日	H21年 9月 29日

【情報提供票より】 (平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 7月 11日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	16 人
常勤	15人
非常勤	1人
常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(165,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

(4) 利用者の概要 (平成21年7月31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	5名	要介護2	7名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.83歳	最低	56歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 竹村医院 安河内歯科医院 前田歯科クリニック 竹村歯科小児歯科医院 医療法人財団 池友会 福岡和白病院 北九州古賀病院 福岡輝栄会病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海にほど近い住宅地に建ち並ぶ鉄筋2階建て2ユニットの事業所である。近隣には学校や医院、商店等があり利便性も良い。屋上には洗濯物を干したり、日光浴が出来るスペースが設けられている。法人はグループホームの他に介護サービス事業、介護付有料老人ホーム等を市外に有しており、法人グループの職員研修体制は充実している。また、利用者が地域の一員として普通の生活を送ることができるよう、事業所は地域との交流に力を入れており、取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題についてだけでなく、気づきが得られた項目についても全職員で改善に向けた話し合いを行い、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、ホーム長が意見を集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等報告している。また、委員からの意見や要望を聴取し、事業所の運営や日頃のケアサービスの向上に結びつける取り組みを行っている。会議録を作成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族等が意見、不満、苦情を表せる機会づくりとして、年1回法人から家族アンケートを実施している。また、職員は日常的に気軽に意見等を表出できるように家族へ声かけを行い、意見を運営に反映させている。家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員の中から地域密着委員を配置し、地域の清掃活動や行事への参加、事業所主催の催しを開催する等している。中学校の職場体験やホームヘルパー実習生を受け入れる等、地域と積極的に交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の中にあるグループホームとして、利用者の能力に応じ自立した生活を営みます。」と地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やミーティング時に、理念から具体的なケアについて意見交換を重ね、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の中から地域密着委員を配置し、地域の清掃活動や行事への参加、事業所主催の催しを開催する等している。中学校の職場体験やホームヘルパー実習生を受け入れる等、地域と積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、ホーム長が意見を集約している。前回評価での改善課題についてだけでなく、気づきが得られた項目についても全職員で改善に向けた話し合いを行い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等報告している。また、委員からの意見や要望を聴取し、事業所の運営や日頃のケアサービスの向上に結びつける取り組みを行っている。会議録を作成している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、行政担当者と日常的に運営に対する相談等を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度について内部・外部研修で学ぶ機会があり、報告・伝達を行い、共有化を図っている。パンフレット・研修記録・報告書がある。利用者や家族には、来訪時に説明を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回発行の事業所便りと併せて介護計画評価表を家族に送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態及び介護計画の評価等を報告している。家族来訪時に状況を報告し、緊急時は電話で対応している。金銭管理については、原則行っていない。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が意見、不満、苦情を表せる機会づくりとして、年1回法人から家族アンケートを実施している。また、職員は日常的に気軽に意見等を表出できるよう家族へ声かけを行い、意見を運営に反映させている。家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員から個別に話を聴いてコミュニケーションを十分に図る等、異動や離職を抑える努力をしている。ユニット間で日常的に交流し、職員が代わる際は引き継ぎの期間を十分に取る等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。職員の自己実現ができるよう、職員自身による目標設定、それを支援する定期面談や教育訓練体制等、安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する内部研修を行い、全職員に伝達し、共有化を図っている。パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人には研修システムが構築され、研修委員を中心に研修計画を作成している。職員は、経験に応じた研修を受け、また研修内容を共有できるよう報告する機会がある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内の同業者ネットワークに加入し、管理者や職員は情報交換や研修会に参加している。また、法人が運営する他グループホームと人事交流を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者本人が安心し納得した上で利用するために、利用開始前には体験入所や自宅訪問等を行っている。利用開始直後、職員は利用者に声かけを多くして寄り添い、場の雰囲気に徐々に馴染み安心感を持てるよう支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から日常生活や季節の行事を通して、生活文化や生活の技を教えてもらう場面がある。また、共に暮らす同士として、職員と利用者は互いに支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を利用者の言葉や表情、行動等から把握し、記録している。意思疎通が困難な利用者には、家族から聴き取った生活歴等を参考に等し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を尊重しながら、職員の意見や気づきを含めて個別具体的な介護計画を作成している。家族へ介護計画を説明し、同意の押印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。月1回、介護計画評価表を家族に送付する等独自の取り組みがあり、常に現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は医療機関に情報提供を行い、また退院カンファレンスを行う等、早期退院に向けて取り組んでいる。通院は基本的に家族が行うが、状況に応じて職員が支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、入所前からのかかりつけ医での受診を支援し、事業所の協力医療機関での定期的往診も支援している。往診・受診内容を記録し、家族に適宜報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針があり、入所時や必要時に説明している。職員、家族、医療機関と話し合い、方針を全員で共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議や内部研修で個人の尊厳・プライバシー保護について話し合い、職員の意識向上を図っている。職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の利用者の要望、体調及び一人ひとりのペースを大切に、買い物や散歩等、気持ちや希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行っている。笑顔が絶えない食事風景は、職員のさりげない見守りや介助の中で行われている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の体調や希望にあわせて柔軟に支援している。入浴拒否の人には、言葉かけを工夫したり、時間をずらす等し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を活かした役割、楽しみごとを支援している。野菜作り、手芸、金魚のえさやり、習字等、利用者の得意分野や楽しみごとで一人ひとりの力を発揮してもらう取り組みを行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物や外食等、天気や利用者の希望・体調に応じて、外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関は立地条件でやむを得ず施錠しているが、家族への説明を行い、同意を得ている。	○	利用者の安全を考慮しながら様々な工夫をし、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。地域住民に参加協力を呼びかけている。	○	非常用食料や飲料水、備品の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量の記録は全利用者分あり、水分摂取量の記録は一部利用者分がある。献立は利用者の嗜好に配慮しながら、食事委員会でカロリー計算をして作成している。</p>	○	<p>全利用者分の水分摂取量を把握してほしい。また最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木の温もりを感じる造りと調度品で、家庭的な雰囲気に配慮している。数か所にソファやテーブルが設置され、利用者はそれぞれ好きな場所できつろいでいる。利用者作成の折り紙や飾りもので彩られ、音や採光にも配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の馴染みの家具や家族写真、小物、仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。